

＜伊豆沼・内沼自然再生全体構想の概要＞

1 自然再生の対象となる区域

伊豆沼・内沼の自然環境や水環境、野鳥の生息環境及び沼の生態系は、沼の周辺のみならず、その周辺の里地・里山やため池、住民の生活・生産活動などと深く関係している。

このため、対象区域は、栗原市、登米市内の5つの流域を含めた伊豆沼・内沼流域（赤線部分、総面積5,265ha）とする。



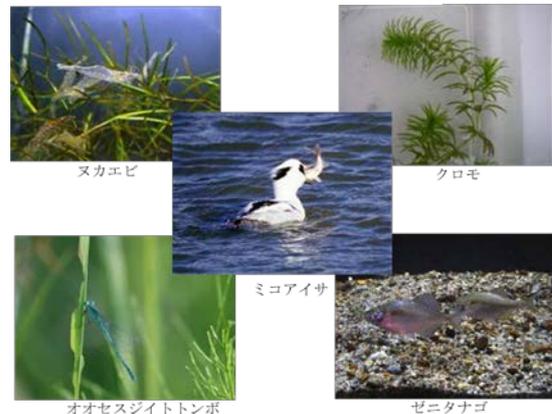
自然再生の対象区域

2 自然再生の目標

昭和55年7月の洪水被害を受ける以前の頃の自然環境を取り戻すことを目標とし、自然環境の遷移の進行を抑制するとともに劣化した環境機能を修復し、多様な生物が生息する淡水性湖沼の生態系を有していた頃の伊豆沼・内沼への再生を目指す。

なお、上記目標に加え、「関係者の共通の希望・理想の姿」として伊豆沼・内沼の将来像を示し、その実現度合いを示す指標となる「目標生物」を右記のとおり設定する。

伊豆沼・内沼の目標生物



3 重点的に進めていく施策

(1) 施策1 生物多様性の保全と再生

- ① ヨシ、マコモ、ハス等水生植物の適正な管理
- ② シードバンクや沼内植栽によるクロモ等沈水植物の復元
- ③ 在来魚類・貝類の増殖・移植と系統保存
- ④ 水鳥飛来状況等モニタリング

(2) 施策2 健全な水環境の回復

- ① 植生管理による栄養塩類沼外持ち出しや導水等滞留防止対策による沼内負荷削減
- ② 下水道整備等による流入負荷の低減
- ③ 水質悪化の要因となる浅底化の防止対策

(3) 施策3 賢明な利用と環境学習の推進

- ① 観光業や農業など地域産業との連携
- ② 環境教育や自然体験学習の充実、住民参加の促進

4 伊豆沼・内沼自然再生協議会構成員（合計39名）

学識経験者7名、地元関係者10名、環境関係団体等7名、公募5名、行政機関10名